

上演 3

2023年7月30日3校目

東北 ブロック (岩手県)

岩手県立水沢高等学校

「空に響け！」

第47回全国高等学校総合文化祭演劇部門

第69回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

岐阜県立岐阜各務野高等学校 (岐阜県)

上松 芹奈

この作品は岩手県に存在する伝統的な応援スタイルであるバンカラを軸に、勇気や伝統、ジェンダーについて考えさせられる劇だった。バンカラは代々受け継がれてきた学校の伝統で、元々は男子だけが活動できるものだった。令和になった今は女子も活動できるようになり、陽来、花純はこれに立候補した。しかし、周りからは「女子のバンカラはいらない」と陰口を言われたり、ネット上で多くの誹謗中傷が書かれたりして、花純は入ることを諦めてしまう。その現状を知った晴月はあまりの辛さに悩んでしまったが、陽来は諦めずバンカラに入った。

ある日、晴月は陽来に対して後輩2人が陰口を言っているのを聞きやるせない気持ちになったが、勇気が出ず何も言えなかった。だが2度目はしっかりと思っていることを口にし、晴月の成長と共に勇気を感じた。たとえ仲間が言われていることでも相手に直接言うのは難しく、自分の思いは言葉にしないと伝わらない。とても勇気があることだったが、晴月はそれを乗り越えたのだ。そこから誰かを思い勇気を出して言葉にすることの大切さを学んだ。

また、ダンス部では代々奥州よさこいや江刺甚句を踊ってきたが、出場者が足りず大会に出られないというシーンがあった。結果的には出られるようになるのだが、討論の中で、伝統は誰かが継いでいかなければ無くなってしまうという意識を委員全員が共有しあった。

最後に、この作品にはジェンダーに関わる内容が織り込まれていた。晴月の父が昔オカマだと言われていたり、バンカラに女子はいらないと言われていたりするなど、令和の今、多様性やジェンダーフリーなどと言いながらも、実際には、劇中のお父さんをお母さんだと思ってしまったように、人を見た目で判断してしまいがちだ。この作品を見て、まだまだ偏見が完全にはない時代だとは言えず、私達自身がジェンダーについてより理解を深めなければならないと強く意識するきっかけになった。

「空に響け！」というタイトルには、太鼓も響くがいつか自分の声も響け！と願っているという意味が込められているのではないかな。

